

平成25年度鎌ヶ谷市男女共同参画推進懇話会第3回会議録

日 時 平成26年2月28日（金）10:00～12:00
場 所 鎌ヶ谷市生涯学習推進センター2階会議室1
出席委員 内海崎委員、平田委員、奥田委員、田中委員、山田委員、平林委員、
堤委員、竹内委員、糟谷委員
欠席委員 坂本委員
事務局 大伯男女共同参画室長、中川主査
記 録 中川
傍聴者数 0名

会 議 内 容

- 1 開 会 大伯男女共同参画室長
- 2 会長挨拶 男女共同参画推進懇話会会長
- 3 会議録署名人の選出 名簿順により田中委員、山田委員が選出された。
- 4 議題

(1) 男女共同参画に係る学習会及び意見交換会

(事務局) 前回新任の第1回会議では、学習会で差別体験ゲームに参加していただきましたが、今回の学習会では、昨年10月に初めて懇話会委員になられました方が4名いらっしゃることもあり、内海崎会長より男女共同参画についての基本的なお話しをしていただきたくお願いしたところ、ご了解をいただきましたので、事前に配付しております「歌詞にみる男女共同参画の移り変わり」の資料により、会長にご講演をお願いいたします。

(会 長) お手元にお配りしております資料は、大学での講座等で女性学の基礎を学ぶ際に使っているものをアレンジしており、これから3曲の歌詞を聴いていただく中で何が見えてくるか、それぞれの曲が流行っていた時の結婚観、家庭観、男性と女性との関わり方などの変化について、男女共同参画の視点から分析していきたいと思っております。

資料により説明

これから、79年に発表された「関白宣言」という曲を流しますが、この歌詞には異議がある、また、このような考え方は今後も維持していくべきなどマイナスとプラスの両面からチェックしながら聴いてみてください。

○「関白宣言」曲流し

(会 長) 皆さま、曲を聴いてのご意見いかがでしょうか。

(A委員) 「おまえ」という歌詞に違和感があります。「あなた」「きみ」という言い方が良いのでは。

(会 長) この表現について学生に意見を求めると、不適切であるという人が7割ですが、「おまえ」と呼ばれ特別な存在になったと感じ、うれしく思う

という人もいます。他の方はいかがでしょうか、プラス面からの意見でもかまいません。

(B委員) 久しぶりに曲を聴いたのですが、歌詞全体が本気で言っているのではなく愛情の裏返しであり、ある意味で夫としては寛大なのではと思えるのですが。

(会 長) 本当は、歌詞のように思っていないと読み取れるということですね。他は、いかがでしょうか。

(C委員) 私は80歳代で、この歌詞のような関係が一般的である時代を生きてきたのですが、この曲が出た当時も、このような命令口調には違和感がありました。

(会 長) 学生の授業では、江戸末期に貝原益軒が書いた「女大学」と比較して話すのですが、「お前を嫁にもらう」という表現は、女性が物のように扱われており、この考え方は同書に記されていて、その時代から引き継がれているものです。

「俺より先に寝てはいけない、俺より後に起きてはいけない、めしは上手く作れ、いつもきれいでいろ」という内容も、女性が身に付けなければならぬ基礎的な技術として書かれています。

ここでは、79年の歌詞を取り上げたわけですが、年表を見ていただくと75年が「国際女性年」、翌76年から85年までは「国連女性の10年」で、その中間に発表されています。

この曲は、当時の結婚式の披露宴で使用され大変流行りましたが、一方で、歌詞の内容に異議を唱えるグループもあり、賛否両論があったとはいえ、当時の日本では受け入れられるような土台があったということ、つまり歌詞から読み取れる男性と女性の関係、家族観、家庭観が賞賛された時代であったということに注目しておいてください。

資料により説明

○「関白失脚」曲流し

この曲が「関白宣言」の15年後の94年に発表されたわけですが、併せて聴いてみると家族観、家庭観が変わってきているのがお分かりいただけると思います。

関白宣言では「家庭」という言い方で、関白失脚では「家族になれてよかったと思っているんだ」と「家族」に変わっているものの、「今日も君たちの笑顔を守るために仕事という名の戦場へ行く」というように、94年の段階ではまだ、家族よりは仕事という思いがうかがえます。

ただ、「右手に定期券、左手に生ゴミ」という歌詞からわかるように、男性が仕事だけではなく、家事にも足を踏み入れはじめていることが読み取れると思います。

○「キセキ」曲流し

先ほど「おまえ」という呼び方に違和感がとのご意見がありましたが、キセキでは「おまえ」ではなく「キミ」で、「俺」ではなく「僕ら」という言い方になっており、「キミの右の手のひらを僕の左の手のひらをそっと包んでく」という歌詞から二人寄り添って並んで歩いているのがわかります。また、「いつまでもキミの横で笑っていたくて」は、明らかに立ち位置が平等になっていると理解できます。

「キセキ」が出たのは「関白宣言」より30年くらい後なのですが、大きな違いは「そばに居てよ、最後の一秒まで」つまり一緒に死にたい

と思っているところです。

次に、平均初婚年齢の推移を調べてみたのですが、80年つまり関白宣言が出た翌年は、夫27.8歳、妻25.2歳で年齢差が2.6歳ありますが、関白失脚の出た翌年95年では、夫28.5歳、妻26.3歳で年齢差が2.2歳に縮まっています。

さらに、「キセキ」が出る2年前の06年の調査を見ても夫30.0歳、妻28.2歳で、1.8歳まで縮まったことを考えますと、歌詞にあるように「キミと僕」というような、平等な立ち位置に変わってきていることも理解できます。

この「キセキ」の歌詞に出てくる男性から見えてくるのが「草食系男子」です。この単語は06年コラムニストの深澤真紀さんが「弱くなった男子、強くなった女子は本当か」という記事の中で草食男子という言葉を使いはじめました。

その後、頻繁にマスコミを中心に騒がれましたが、大阪府立大学の森岡教授が「草食系男子」と「肉食系男子」についての著書で、それぞれどのような特徴があるか述べています。

とりわけ私が注目したいのが、草食系は「女性に対して、性的にガツガツしない」のに対し、肉食系は「性的に積極的に行動する」という点で、草食系が増えることで少子化が進むと言われたこともあります。

そこで、本当に草食系男子が増えているかどうかですが、結論的には増えているとは言えません。何故かという点、正式な定義付けがなされておらず概念があいまいで、客観的に根拠を示すデータもないからです。唯一のデータとしてあげるとすれば、行動生態学の研究者で長谷川真理子さんの「日本における若者の殺人率の減少」という論文の中にあります。

それによると、日本が世界と同様に50年代は20代男性が犯す殺人件数が突出して高かったのに対し、その後、日本だけは減り続け、2000年代では10分の1まで減少し、一方で、30代以上の中年男性の件数が多くなってきている、つまり凶暴になってきているという数字が示されています。

そういう意味では、世界で日本の20代の凶暴な男性が最も少ない、つまり草食系男子が増えてきているとも言えなくもありません。

そこで、原因として女性の社会進出、男女平等思想が進んだこと、経済不況などが考えられるわけですが、そのようなことは日本に限らず起きていることで、世界では相変わらず20代男性の殺人件数が多いことから、直接的な理由とは言えないでしょう。

長谷川さんは、戦後の日本が軍隊を持っていないこと、徴兵制がないことなどが、日本の若い男性を凶暴にしていない一因なのではないかと分析しています。

もう一度、「関白宣言」「関白失脚」「キセキ」の男女の主語を確認してみると、これは主従関係を表すのですが、「宣言・失脚」では「オレ、オマエ」となっているのに対して、「キセキ」では「ボク、キミ」と相互関係になっています。

また、国民生活白書の中で58年から引き続き実施している調査項目で「あなたにとって、一番大切に思うものは何ですか」という問いに、「家庭」と答えた人を58年と07年で比較してみます。一般的に、昔は家

庭や家族を大事にしてきた、とりわけ戦前・戦後は家族を大事にし、つながりを持って生きてきたと思われているようですが、58年の一番は「生命・健康・自分」となっていて、「家庭」や「家族」と答えた人は1割しかいないことから、データから見てみると、残念ながら幻想です。03年になると、ようやく「家族」が5割になって、以降、若い世代を中心に増加してきているという状況です。

最後にまとめますと、79年の「関白宣言」から29年後の08年の「キセキ」への転換では、男女の関係が横並びに変わってきており、更に「草食系男子」の出現は日本の平和の象徴であり、言い方を変えれば弱肉強食の否定です。

若い世代は優しくなっているのですが、それをどう捉えるかがこれからの課題でもあります。

更に、ジェンダー平等社会、つまり男女の関係が横並びになったということは、個人の生き方の選択を阻害しない社会になりつつあり、多様な性のあり方を尊重できる社会になってきたということで、これまでの歴史を振り返ると、男女の関係が変化してきていることが読み取れるのではないのでしょうか。

(会 長) この後は、委員の皆さまに自由に意見交換していただくわけですが、ご質問でも結構ですのでいかがでしょうか。

(A委員) 「関白宣言」が出たあとの80年代は「男女雇用機会均等法」が施行され、男女平等という観点からすると大きな変化があった年代だったのではと感じています。

ただ、男女雇用機会均等といいつつも、施行当時は企業内では十分には反映されていなかったように記憶しています。

(会 長) 確かに当時もまだ、企業が一般職、総合職と分けて採用していたように、実質的には均等ではなかったと思います。

(D委員) 家庭における家事分担の調査があり、全国20歳以上とありますが、対象を専業主婦とそうでない人を分けていないので、家事分担は妻という問いでは、掃除や食事など7割以上になっていますが、専業主婦を対象に調査すればもっと高くなるのではと思いますが。

(会 長) 対象者を就業しているか否かで分けていないので、専業主婦を対象にすれば委員がおっしゃるように更に高くなると思います。

(C委員) 私は、教員を経てファッション業界に転職し、社長が女性で社員も9割以上という会社で、周りの女性社員を見ていて能力の高さに感心していました。ただ、当時の社会では、女性を人材として活用していくような風潮ではなく残念に思っていました。

(会 長) 確かに人材が埋もれてしまうのはもったいない話しですね。

他にご意見、または感想でもかまいませんが、ございませんか。

(E委員) 02年の家庭における最終決定者の調査では、夫が決定する項目で「土地・家屋」の購入は48%になっていますが、私が携わっている仕事のうえで感じている限りでは、妻の意見が反映されている率が高いうえに思います。

(会 長) 時代がそのように変わってきているのですね。

(F委員) 私は農家で3世代同居ですが、農家に嫁いでくる女性を見ると、最近では別居するケースが多くなってきていると感じています。

(会 長) 家族形態が変わってきているのですね。

- (D委員) 75年の国際婦人年から40年ほど経過している中で、行政が先頭に立って男女共同参画を進めてきているわけですが、まだ十分ではない現状では、ひとり一人が意識を変えていかなければならないと感じています。
- (会 長) 他にいかがですか。
- (G委員) 私は、男女共同参画に関する知識が十分ではなく、もっと勉強していく必要があると感じているのですが、自らもボランティア活動をしている中で思うことは、鎌ケ谷市では女性の割合が非常に高いことです。そういう意味からすると、ボランティア活動においては男女共同参画が進んでいると言えるのではないのでしょうか。
- (会 長) 具体的なデータとして示せばいいですね。他はいかがですか。ないようでしたら議題(2)その他ですが、事務局よりお願いします。
- (事務局) 例年、男女共同参画推進懇話会第1回会議では、事前に資料として配付させていただいております「鎌ケ谷市男女共同参画推進計画第1次実施計画進行管理表(一覧)」の各担当課の事業における実績や課題等についてご意見をいただいているところです。
お手元の進行管理表一覧は、昨年5月各担当課が記入したものに、委員の皆様のご意見が加わり作成が終わっていますが、議題(1)での内海崎会長からの男女共同参画のお話を踏まえまして、あらためてご意見があればいただきたいと思えます。
また、昨年10月に初めて委員に就任された方々につきましては、進行管理表をご覧になっていただき、分からない点などについて、事務局に尋ねていただいても結構ですので、よろしく願いいたします。
- (会 長) お手元の進行管理表をご覧になって何かご意見をとのことですが、いかがでしょうか。
- (C委員) 進行管理表を事前にいただいていたので目を通しましたが、詳しく説明を聞かないと分からないと感じました。
- (会 長) 今回は説明をしていただくだけの時間がないので、お帰りになって、今一度、進行管理表をご覧になったうえで、分からない点を事務局に伝え、次回の懇話会で説明していただくということといたします。
それでは、これにて第3回会議を閉会させていただきますが、次回の懇話会は、いつ頃を予定していますか。
- (事務局) 5月末を予定しております。
- (会 長) わかりました。委員の皆さま長時間にわたりお疲れ様でした。

○以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成26年5月2日

氏名 田中 誠次

氏名 山田 芳裕